

私と知り合う前のあなたのこと

光永結香

山口県・三六・団体職員

あなたから突然言われた時には、驚きました。結婚して一一年、二人の子にも恵まれ、やっと二人だけの時間が持てるようになってきていたのに……。

それは私と知り合う前のこと。学生だったあなたには、一歳年上の好きな人がいました。その名を耳にするたびに、本当にその女性が好きだったのだらうと、ぼんやり受け止めていました。彼女との四年間は純粋なあなたに鮮明な印象を残しているようでした。

「もうすぐ、二〇年になる」というあなたの言葉に私は戸惑いました。彼女との約束、それは、一〇年後、二〇年後の再会を誓っていたこと。どうして今さら？ なぜ？ と急にあなたが遠い人に見えてきました。一〇年たった頃は、何もかもが無我夢中で、すっかり忘れていたと言うけれど、二年後に迫る二〇年目に一体あなたは何を考えているの？

渦巻く私の胸中とは裏腹に、「会いに行ってみれば」と不本意にもつぶやいていました。私が知らない、あなたと彼女との空間、遙かな思い。そんな心も知らず、平淡な生活を送っていた私。動揺もしなかったと言えば嘘になるけれど、胸の内を明かしてくれたあなたに、感謝する気持ちも表われてきました。

遠い所へ嫁いでしまった彼女、またそのことを知り、やっとあなたは、心に区切りがついたと言っていました。

もしかしたら二〇年後のその日に彼女を一目見に行くのでしょうか。その時には、自分の家族も一緒に連れて行くと言うあなた。複雑な私の心境を理解してもらえますか。私自身、前向きに生きていかなくはならない、そんなことを思い知らされました。共に生き、共に歩む。平易なことのようにでも、お互い計り知れない部分がまだまだたくさんあるのですね。許し合い、認め合うことの大切さが身にしみてわかりました。ありがとう、あなた。そしてこれからも、よろしく願います。

結香

*妻から夫へ贈ります。